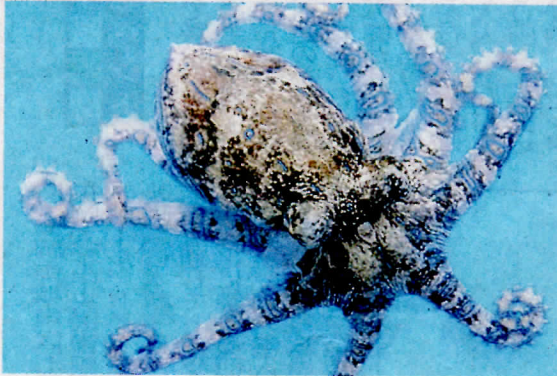


注意 没出 コタ 毒猛

九州北部、捕獲相次ぐ

九州北部の沿岸や砂浜で、フグと同じ猛毒を持つ「ヒョウモンタコ」を見たとの情報が続々と寄せられている。九州北部の沿岸部で生息が確認されるのはまれだが、かまれると死に至ることもあるという。海水浴シーズンを前に、地元自治体はホームページなどで「見つけても絶対に触らない」と注意を呼び掛けている。



も 難 呼 吸 と 呼 ば れ か

ヒョウモンタコは体長10センチ前後で、ヒョウ柄のまだら模様が特徴。普段は薄茶色で地味だが、興奮すると青いリング模様が見える。唾液に猛毒のテトロドトキシンが含まれ、かまれるとしびれや言語障害、呼吸困難になるという。

福岡県水産海洋技術センターによると、3月から5月にかけて3件の目撃情報が寄せられた。一つは北九州市若松区の漁師からで、イカを取るための海中の籠に入っていたという。残り2件は、同県岡垣町の砂浜と福岡市東区の岩場でそれぞれ遊んでいた人から、東区のヒョウモンタコは、地

▲ マリンワールド海の中道で展示されているヒョウモンタコ

元の水族館マリンワールド海の中道に持ち込まれ、展示されている。佐賀県水産課にも4月に3件あった。いずれも唐津市内で見つかっており、うち一つは西の浜海水浴場を散歩していた市民が「珍しい」と持ち帰り、家の水槽に入れていたという。県は「触らないで」と電話で注意。唐津市は、海水浴場の海の家に注意喚起のポスターを張るか検討している。

本来、ヒョウモンタコの主な生息地は鹿児島以南だが、温暖化で生息域が北上しているとの指摘がある。今年には神奈川県茅ヶ崎市で初めて見つか

った。鹿児島県水産振興課は「昔からおり、特に注意喚起はしていない」が、指宿漁協（指宿市）の職員は「数日前にもタコの漁の籠にかかった。漁師がグロテスクな模様を気持ち悪がって逃がした」と話す。

マリンワールド魚類課の垣野陽介さんは「オーストラリアでは死亡例もあり、見つけても近づかないのが一番。万一かまれた場合は、すぐに傷口から血を搾って、流水で洗い流して。呼吸が浅くなったなら人工呼吸を」とアドバイスしている。